

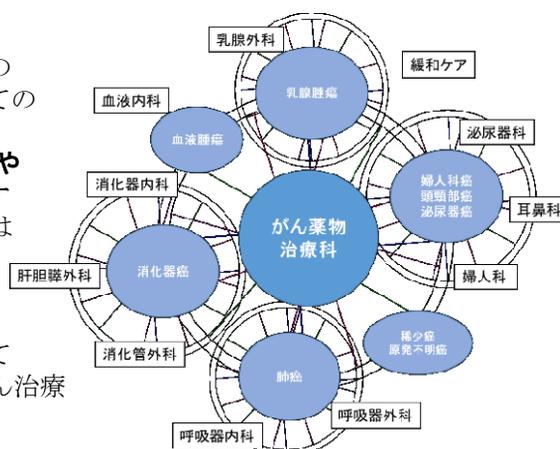


腫瘍内科

来たれ！がん治療を志す医師！

■ 腫瘍内科の特徴

- 腫瘍内科は、全てのがん患者のアウトカム向上を目指し、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬等のあらゆる薬物療法に精通して、**集学的治療のハブ**としての役割を担います。
- 将来、**腫瘍内科を目指す医師はもちろん、消化器内科や外科・放射線治療科・婦人科・泌尿器科専門医を目指す医師**においても、臨床腫瘍学の基本的知識や薬物療法は必須のスキルとなりますので、是非、腫瘍内科のローテーションをお奨めします。
- さらに、腫瘍内科はがんバイオバンクやクリニカルシーケンスに基づくがんゲノム医療において日本のリーダーホスピタルで、当科の研修を通じてがん治療における**最新のPrecision Oncology**を体感できます。



■ 2年次の研修目標

1年次に身につけた診断・治療法をベースにしながら、主治医団の一員として外来および入院患者を受け持つことを通じ、薬物療法を通じてがん患者マネージメントの基本的な考え方や有害事象の対応を習得することを目標とする。

- 1 がん患者について、疾患リスクや背景基礎疾患（循環・呼吸・消化器・腎・糖代謝）の評価を的確に行うことができるようにする。
- 2 がん患者の病期診断に必要な検査（超音波検査、内視鏡検査、CT、MRI、PET-CTなど）の計画を立て、その結果からStagingを行えるようにする。
- 3 がんの病期診断と進行度に応じた治療法の選択を理解するとともに、腫瘍分子生物学に基づく治療方法の適応・利点・欠点を理解する。
- 4 薬物療法の適応となる患者においては、使用する抗がん薬の投与方法とその作用機序を習得する。
- 5 抗がん薬の副作用（骨髄毒性、嘔吐、下痢など）を理解し、CTCAEに基づく評価基準にあわせてカルテ記載ができる。
- 6 オンコロジックエマージェンシーの病態について理解し、治療関連科にコンサルトの上で治療方針を立てられる。
- 7 がんに伴う症状（疼痛、精神症状など）に対する適切な対処法を学ぶ。
- 8 胸腔穿刺・腹腔穿刺などのがん関連手技を経験する。
- 9 がん患者の緩和ケアおよび終末期ケアに積極的に関わる。
- 10 学会（地方会）において症例報告を行う。

■ 見学・問い合わせ先

腫瘍内科 連絡先 医局長 金井 雅史

e-mail : kanai@kuhp.kyoto-u.ac.jp

tel : 075-751-3518